

- <座長>稲葉 寿(東京大学)  
山田 茂(国土舘大学)  
大塚友美(日本大学)
5. 2000年国勢調査結果の精度について
  6. 補充移民の推計について
  7. 出生力のコーホート・モデルとピリオド・モデル 鈴木 透(国立社会保障・人口問題研究所)
- [第6部会]

- <座長>濱 英彦(元・成城大学)
1. 都道府県人口移動表と年齢各歳別転入超過数(推定値)からみた都道府県間人口移動のあらまし  
大場 保(国立社会保障・人口問題研究所)
  2. 広島県の人口移動理由の変化(1966年～2000年) 伊藤 薫(岐阜聖徳学園大学)
- <座長>山本千鶴子(元・国立社会保障人口問題研究所)
3. 釧路市における帰還移動－住民票データファイルの分析－  
清水昌人(国立社会保障・人口問題研究所)
  4. 1920～30年の地域人口分布と人口移動－「1960年代以前のわが国の地域人口の研究」その3－  
中川聡史(神戸大学)  
高橋眞一(神戸大学)
- <座長>坪内良博(甲南女子大学)
5. イスラム諸国における血族結婚と出生力 小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
  6. 東南アジアのムスリム人口 店田廣文(早稲田大学)
- [第7部会]

- <座長>森岡 仁(駒澤大学)
1. 一般均衡的成長会計による少子高齢化の経済的分析 山口三十四(神戸大学)
  2. 高齢化と経済成長－高齢化社会で人的資本が経済成長に果たす役割－ 両角良子(東京大学)
- <座長>江見康一(一橋大学)
3. 老親介護における有配偶女性の役割－別居介護に注目して－  
小山泰代(国立社会保障・人口問題研究所)
  4. 中国における農村人口の高齢化 羅 潔(早稲田大学)
- [第8部会]

- <座長>金子武治(女子栄養大学)
1. 戦前日本の農業世帯内時間配分 小林淑恵(慶應義塾大学)
  2. 日本における離家決定要因－NFR98データを用いた分析－ 福田節也(明治大学)
  3. 調査における生存親族数 渡邊吉利(国際医療福祉大学)
- <座長>鈴木良一(家族計画国際協力財団)
4. アフリカ(サハラ砂漠以南)の人口政策－現状と出生率転換－大橋慶太(モントリオール大学)
  5. 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」－国際人権法からの考察－ 谷口真由美(大阪大学)
  6. 日本における人口学と生殖技術の関係性 仙波由加里(早稲田大学)  
(加藤久和記)

## 日本中東学会第18回大会

日本中東学会(会長:加藤 博・一橋大学教授)の第18回大会(実行委員長:佐藤次高・東京大学教授)が2002年5月11日(土)～12日(日)の2日間にわたって東京大学本郷キャンパスの山上会館

で開かれた。初日の午後には公開記念講演・公開シンポジウム、総会が行われ、2日目には午前から午後にあたる4部会が設けられた。今回の公開シンポジウム「日本のムスリム社会」は国際人口移動者を扱ったもので、大塚和夫教授（東京都立大学）の司会のもとに以下の4報告が行われたが、いずれも非常に興味深い内容で、討論も盛り上がっていた。

井上あえか（東京大学）：「日本におけるパキスタン人：歴史的動向」

山岸智子（明治大学）：「イラン人の日本体験」

桜井啓子（学習院女子大学）：「日本のムスリム移民：定住化へのスペースづくり」

内藤正典（一橋大学）：「西ヨーロッパのムスリム移民～共生の課題とは何か」

他方、人口に多少とも関係する一般報告としては以下の四つがあった。大河原報告は歴史人口学的分析として興味深いものであった。

松沢祐子（東北大学・院）：「バングラデシュの家族計画」

小島宏（国立社会保障・人口問題研究所）中東諸国における血族結婚の比較分析

三尾真琴（中部大学・非常勤講師）：「ディアスポラと民族教育：レバノン・シリア・イランにおけるアルメニアコミュニティの比較から」

鈴木均（日本貿易振興会アジア経済研究所）：「ルースター・シャフル：革命イランにおける農村部小都市の形成」

なお、来年の大会は5月10～11日に別府市の立命館アジア太平洋大学で開催される予定である。

（小島 宏記）

## 比較家族史学会第41回研究大会

日本比較家族史学会（会長：鎌田 浩・専修大学名誉教授）の第41回研究大会（実行委員長：岩本由輝・東北学院大学教授）が2002年5月25日（土）～26日（日）の2日間にわたって岩手県遠野市の「あえりあ遠野」で開催された。ほとんどの研究報告は多かれ少なかれ柳田国男著『遠野物語』ないし遠野に因んだものであった。しかし、第2日目の午前には人口研究とも関連が深い生命倫理に関する小シンポジウムが前回大会に続き開催された。今回は上杉富之・成城大学助教授により生殖技術に対する各研究分野からのアプローチを軸に組織され、日本人口学会会員の太田素子・湘北短期大学教授も「歴史研究から見た生殖技術を巡る諸問題」と題された報告を行った。（小島 宏記）

## 国連人口開発委員会第35回会合

本年4月1日から5日までニューヨークの国連本部において国連人口開発委員会第35回会合が開催され、国立社会保障・人口問題研究所からは阿藤誠所長と小松隆一研究員が政府代表団の一員として参加した。今回の特別テーマはHIV／エイズを含むリプロダクティブヘルス／ライツであった。本年の議長国としてはイタリア、副議長国に日本、ガーナ、ジャマイカが選出された。

第34回会合の議長であった阿藤社人研所長によって開会されたあと、開会の辞として、Nitin